

国見の丘時評

若者に夢を



東北文化学園大学学長
土屋 滋

念願の教育支援センターを1号館1階に設置し、全学共通科目を企画・実行し、また、国語・数学の個別的な補習教育を開始した。今年から、全学共通科目の一つとして、専門教育に入る前の基礎学力を確認するためのTGBUプロジェクトIII(人間形成)をスタートさせた。この科目を受講する対象者は、入学時に行われるベーシックテストの成績を参考に募られる。個別的な補習については、主にこの授業を聴講して、なお理解が不足していると思われる学生に対して行われる。

受講者は120から130名にのぼり、ほぼコンスタントに授業を聴講している。教育支援センター運営委員会の教員も数名授業に立ち会っている。そこで問題になったのは私語である。教室の後ろの方に陣取る男子学生、女子学生は、授業に関わらずおしゃべりを止めない。次回から学生は一人置きに座らされ、それでも私語が目立つ学生には警告のためのイエローカード、レッドカードが用意された。

若者は国を支える礎である。欧米に追い付け、追い越せと努力してきた時代の後、社会そのものに夢を育む力が低下したのだろうか。文化と歴史を大切に、精神的に豊かな日本を築くためには、社会全体で教育の在り方について考えていく必要がある。

《お願い》 住所変更をお知らせください

本会では、同窓会報を始めとする各種ご案内を会員の皆様へお送りしております。ご住所、お名前の変更があった場合には、本会へお知らせください。変更の情報は、同窓会公式WEBサイトから、もしくは郵送にてご連絡をお願い致します。

【問い合わせ先】
東北文化学園大学同窓会事務局
仙台市青葉区国見6丁目45-1
大学事務局教務部学生課内
電話 022-233-6194

※お預かりした個人情報は同窓会活動のみ
に利用し、名簿の販売・頒布は行いません。

携帯サイトはこちら▶



同窓会費の納入について

本会では、会員の皆様からの会費により運営を行っております。入学時に入金金として5,000円、卒業時に終身会費10,000円の納入をお願いしております。まだ会費を納入いただけていない場合は、会費の納入をお願いいたします。

【会費振込先】
仙台銀行本店営業部
普通預金 4755741
トウホクバンク カ ガクエンダイガクドウソウカイ
東北文化学園大学同窓会

※お振込の際は、学籍番号とお名前を必ずご入力ください。
学籍番号は同窓会報送付封筒に印字しております。
※恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

同窓会WEBサイトをご活用ください

2010年より、同窓会公式WEBサイトでは、同窓生に関する情報や学園のイベントなどを皆様にお届けしています。また、会員同士が自由に情報を発信し交流ができる、「同窓生の輪」というコンテンツもあります。短大、大学の卒業生が末永く、縦・横の繋がりを維持し支え合っていくために作成されました。皆さんどんどん活用してくださいね!!

携帯サイトはこちら▶



あとがきにかえて

“ツバメさん” いらっしやい

同窓会事務局長 高橋勝則
(大学事務局長)

今では恒例の学園風物詩になっていますが、毎年春になると国見のキャンパスにツバメが飛来してきます。「ああ、今年も戻って来たな」と嬉しくなってしまいます。キャンパス内のあちらこちらに巣づくりが始まり、雛が孵ると親鳥が盛んにえさを運んで与

えています。成長すると親鳥が飛び方やえさのとりの方を教えているのでしょう。雛と群れを成してキャンパス内を飛び交っています。(写真)そして、いつの間にか南方へ巣立っていきます。

この光景を見るたびに思うことは、わが大学に入学してくる学生さんと同じだということです。このキャンパスで自分の目的のため一生懸命学び、そして成長し卒業していく。それが毎年毎年繰り返されています。

同窓会活動もツバメと同じようにありたいと願っております。自分が学んだところを省みて、何らかの形で次の世代の学生を支援する。それがずっとずっと続くことを。



輝 KIRARI

TBG 同窓会報

TBG Alumni Association News

vol. 6

[2012.10.1]

Contents

明日への復興	2,3
平成23年度事業報告・決算報告	4
平成24年度事業計画・収支予算書	4
恩師から	5
輝くサークル活動	5
平成24年3月卒 同窓会新役員の皆様	5
活躍する卒業生	6
ホームカミングデーへのご招待	7
文化園祭2012 開催のお知らせ	7
国見の丘時評	8
あとがきにかえて	8



明日への復興

東日本大震災発生から1年半が過ぎました。この間、被災地では復興に向けていろいろな取り組みがなされていますが、まだまだ時間を要する状況です。今回は卒業生が震災時に職業人として、どんな経験をし、どんな行動をされてきたかスポットを当ててみました。また、大学の震災復興へのボランティア活動もお伝えします。

東日本大震災を経験して

平成19年3月 / 科学技術学部 環境計画工学科卒
相馬地方広域消防本部相馬消防署
横田 寿彦

東北文化学園大学を卒業して5年。現在、私は福島県の相馬地方広域消防本部相馬消防署に勤務しています。

学生時代から消防という職業に憧れ、人の為に働きたいと思っていましたが、一度は自衛官という別の道に進みました。しかし、消防という夢を諦められず再度挑戦し消防の職につくことができました。

消防官となり3年目の平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。今までに感じたことのない揺れに、街はパニック状態となりました。相馬市では震度6弱を観測しました。

すぐに街のいたる所で救助、救急要請が入り私も救助現場に急行し、活動にあたりました。現場の作業中に、追い討ちを掛けるかの様に大津波が襲来しました。沿岸部に行きその変わり果てた後景を見て呆然とし何も言葉がでませんでした。今まであったものが全て無くなっているのです。

中には津波により孤立し私達がすぐに近づく事ができない地域もあり、目の前に助けを求めている人がいるのに助けに行けない無念さを痛感させられました。

そんな中、そこで救助活動を行い助けあったのは地域住民や消防団によるものでした。私たちも不眠不休で救助、救急活動にあたり、翌日からは緊急消防援助隊、自衛隊、警察の他県からの応援部隊と合同で行方不明者の捜索活動等に従事しました。

そしてその間、全国からのボランティア団体、民間人、企業等から様々な支援や援助のもと少しずつ復興へ向け歩み始めました。私はこの震災から「助け合いの心」、「人と人の繋がり」の大切さを改めて実感しました。今回の震災を教訓とし、消防官としてこれからも地域の安心、安全を守る為、日々精進していきます。



震災を振り返って

平成17年3月 / 医療福祉学部 保健福祉学科 保健福祉専攻卒
特別養護老人ホーム 赤井江マリンホーム
北野 恵理子

「あの日の事は思い出したくない…」それが、震災に対しての正直な気持ちです。

私の勤務する特別養護老人ホームは、沿岸から200mの位置にあり、津波により建物が壊滅しました。今は建物の残骸は撤去され更地となっています。震災当時、施設の入所者と職員は仙台空港に避難し全員が無事でした。しかし、空港の2階から見た、黒い濁流に全てが呑み込まれていく光景や、真っ暗闇の中で過ごした長い夜を思い出すと、今でも夜、寝付けなくなる事があります。

震災から1年半が経ち、現在も同法人内の2ヶ所の施設を間借りし、入所者のお世話を続けています。この1年を振り返ると様々な出来事がありました。避難先で環境が整っていない中での介護の問題や、体調の悪い方の入院先の確保が困難な医療的な問題。全てのデータや資料が流し、事務的な問題の発生。様々な問題に直面しては、職員同士話し合い、工夫を凝らして対応してきました。また、そのような不便な状況の中でも、全国から沢山の支援物資を送っていただき、少しずつ必要最低限の介護ができる環境も整ってきました。

介護をする職員自身も被災し、疲れやストレスを感じる中、入所者の家族や地域の方々から掛けられる温かい言葉に励まされ、沢山の人が支えられています。何より、どのような状況下でも「私は大丈夫だよ」とたくましく生活する入所者を見ると、「目の前に介護を必要とする人がいる」「入所者の生活を守りたい」という思いが湧き、介護を続けている原動力になっているのだと思います。

来年の冬には、以前より少し内陸部に新しい施設が完成する予定です。復興までにはまだまだ時間は掛かりますが、自分にできる事は何かを考え、一つずつ取り組んで行きたいと思っています。



引き続き『輝ける者基金』を 宜しくお願ひ致します

東日本大震災で被災された皆様に心から御見舞申し上げます。
この基金は、大学で設立された基金で寄付という形で母校を支援出来るものです。
大学への皆様の温かいご支援を、よろしくお願ひします。

『輝ける者基金』は、被災学生の学費減免措置、生活支援のための緊急奨学金、施設設備の復旧工事、教育・研究活動の復旧活動を目的としています。
お問い合わせは、法人事務局総務部企画調整課までお願ひします。●TEL:022-233-3330 ●FAX: 022-233-9875 ●Email: kikaku.tbgu@gmail.com

ボランティア活動を支援して

地域連携センター長
総合政策学部教授
三木 賢治

東日本大震災の後、本学の多くの学生や教職員が被災地に出向き、さまざまな被災者支援、被災地復興のための活動を展開してきました。地域連携室では各種活動の連絡・調整の窓口として、ボランティア保険の保険料の全額補助などを通じて活動を全面的にバックアップしてきました。今年4月には地域連携センターに拡充され、態勢を強化しています。

昨年12月には、ボランティア活動に携わった学生、教職員にボランティア・ポイントを付与する「ボランティア・ポイント制度」を創設。活動を評価し、称揚するシステムを導入しました。ボランティアとして登録した学生、教職員に「ボランティア・ポイントカード」と名付けたライトタイプのポイントカードを配布し、活動を重ねるたびにポイントを付与する仕組みです。獲得ポイントの多い者を表彰するほか、「ボランティア活動証明書」を発行して活動の証とし、就職活動などに利用してもらいます。

センターが直接、企画・実施するボランティア活動も少なくありません。「一緒に春を待とう! プロジェクト」では、秋田県由利本荘市で知的障害者施設を運営するNPO法人あゆみと提携。本学学生と障害者が協力して作った鉢植えの花を定期的に名取市の仮設住宅団地の被災者にプレゼントしたり、冬は焼き芋、夏はかき氷を楽しむイベントを通じて被災者を激励しています。

昔から鍋帽子の名で伝承されてきた鍋・薬缶用の縮入れ保温具を学生たちが製作。被災者に絵手紙を添えて届けなが

ら、悩みごとの相談に乗ったり、生活を支援する取り組みも展開しています。また、学生が折り紙やちぎり絵、合唱、七夕飾りやクリスマスツリーの製作などを通じて被災者の閉ざされた心を開き、コミュニケーションを図る「お話し聞き隊」がいくつも編成され、各地の仮設住宅などの慰問を続けています。



「被災地ドキュメント・プロジェクト」という息の長い取り組みも進めています。宮城県内十数カ所の被災地を本学学生が定期的に訪問。定点から同じアングルで写真を撮影したり、同じ関係者から証言を聞き取るプロジェクトです。被災地の復興の様子や被災者の心の変遷を記録し、東日本大震災とはどのような災害だったのか、人々はどのように被害に立ち向かったか……を後世に伝えるのが狙いです。在学生だけでなく、新入生にバトンタッチしながら被災地を継続的にルポし、5年後、10年後に成果を発表する計画です。

被災地に立つ大学としての使命を踏まえ、これからも各種のボランティア活動を展開しながら復興に寄与していく所存です。

本学のボランティア活動のけん引役

野村 笑佳さん (医療福祉学部助教)

「被災地に住む看護職の1人としてお役にたきたい」。そんな思いで震災直後から名取市の避難所や仮設住宅に通い、健康支援の活動を続けている。心身の健康状態を気遣いながら被災者の話に耳を傾け、精一杯、気持ちを受け止めようと努める。「忘れていません」、「ずっと見守っています」というメッセージを伝えたいとの一心あればこそ。

昨年8月からは看護学科の学生を引率している。ひと月に1度、180戸の仮設住宅の住民に、用意した季節の絵手紙を手渡ししながら安否と健康状態を確認し、コミュニケーションを図る。当初は素っ気ない対応もみられたが、最近、ようやく「いつもありがとう」という言葉が返ってくるようになった。健康増進に役立つ様々なイベントも企画、実行するうちにファンも増えてきた。好評と謝辞に気を良くする学生たちに「自分たちのしたいことより、相手が必要としていることよ」といさめることを忘れない。「ボランティアが独り歩きして押し付けにならないように気を付けては」

「被災者と学生を支援する側に徹したい」と語る。看護職になればこそ。通い慣れた愛島東仮設住宅団地には、

土屋滋学長も何度も足を運び、本学のボランティア活動の輪が広がる。「被災地で学ぶ大学生として、とにかく長期間継続して支援することが大切」と、仕掛け人は訴える。8月に第2子が誕生したばかりだが、ボランティア活動家の産休は短い。秋田県田沢湖町出身、29歳。



学園バスでボランティア活動に出かける本学学生ら。中央列右端が野村助教。

平成23年度 東北文化学園大学同窓会事業報告

平成23年3月の東日本大震災による一時活動停止と、3月末での事務局員の交代のため、平成23年度同窓会事務局の運営再開日は平成23年5月2日からとなりました。

1.機関誌の発刊、ホームページ等の管理運営、会員名簿の作成

- (1)公式Webサイト管理運営
- (2)会員名簿の整備(正会員情報登録)・更新

2.講演会、懇談会等の開催、支援

- (1)他団体主催会合支援
平成23年9月、保健福祉学科からのキャリアアップ教育後援の依頼により、保健福祉学科同窓会員の住所データをタックシールにて提供。

3.その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1)会費徴収業務
- (2)会員サービス業務
- (3)大学広報誌との連携

4.会議及び監査

- (1)理事会
(6月、8月、1月、3月)
- (2)代表者会議(10月)
- (3)各ワーキンググループ
・会報担当(7月~9月)
・ホームカミングデー担当(7月~10月)
- (4)会計監査

平成23年度 東北文化学園大学同窓会 決算報告

第9期(H23.4.1~H24.3.31)

貸借対照表

資産の部		負債・繰越の部	
分類	科目	金額	金額
A	流動資産	10,665,862	3,749,941
1	現金預金	10,635,354	199,941
2	貯蔵品	30,508	3,550,000
			6,915,921
		10,665,862	7,372,422
			-456,501
			10,665,862

収支計算書

収入の部		支出の部	
分類	科目	金額	金額
A	同窓会費	3,560,000	1,914,250
1	入会金収入	2,840,000	800,000
2	終身会費収入	720,000	34,000
			85,906
			209,065
			402,150
			107,975
			5,540
			377,593
			12,320
			0
			150,880
			2,293
			212,100
			2,049,351
			9,040
			8,490
			0
			620
			2,003,536
			8,705
			15,960
			3,000
			0
			0
			0
			6,667,571
			6,915,921
			10,933,813

平成24年度 東北文化学園大学同窓会事業計画

1.機関誌の発刊、ホームページ等の管理運営

- (1)同窓会報発行(年1回)
- (2)公式Webサイト管理運営

2.会員名簿の整備及び管理

- (1)会員名簿の整備・更新
- (2)会員住所判明調査

3.講演会、懇談会等の開催

- (1)ホームカミングデー(文化学園祭出展など)
- (2)他団体主催会合支援

4.「進路・就職支援」及び「正課外活動支援」等、在学生に対する支援

- (1)保護者懇談会支援
- (2)後輩の就職支援

5.その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1)会費徴収業務(入学者・卒業生・既卒者 督促含む)
- (2)会員サービス業務(学園歌CD製作・卒業記念品製作等)
- (3)大学広報誌との連携
- (4)広報宣伝
- (5)OBの大学施設利用と資格取得のための支援

6.会議及び監査

- (1)理事会(年4回)
- (2)代表者会(年1回)
- (3)ワーキンググループ
・ホームカミングデー企画
・会報作成担当
・次回定期総会
- (4)会計監査
平成24年度会計監査 5月:平成23年度会計監査

※平成24年度の定期総会の開催はありません(次回定期総会:平成25年度)

平成24年度 東北文化学園大学同窓会 収支予算

第10期(H24.4.1~H25.3.31)

収入の部		支出の部	
科目	予算額	23年度予算(※1)	増減
A	会費収入	4,175,000	4,175,000
1	入会金	3,175,000	3,175,000
2	終身会費	1,000,000	1,000,000
			2,908
			2,000
			0
			0
			4,177,000
			6,915,921
			11,092,921

支出の部		増減	
科目	予算額	23年度予算(※1)	備考
A	事業費支出	1,914,250	1,914,250
1	会報作成費	800,000	800,000
2	Webサイト管理運営費	434,150	434,150
3	会員名簿整備及び管理費	34,000	34,000
4	ホームカミングデー事業費	200,000	200,000
5	会費徴収事業費	131,000	131,000
6	会員サービス事業費	285,100	285,100
7	広報宣伝費	30,000	30,000
B	会議費支出	661,100	506,000
1	通信費	29,000	258,000
2	交通費	410,000	410,000
3	雑費	10,000	10,000
4	監査費	212,100	212,100
C	事務費支出	1,850,000	2,253,000
1	消耗品費	12,000	12,000
2	通信・運搬費	7,000	7,000
3	旅費・交通費	5,000	5,000
4	人材派遣費	1,800,000	2,200,000
5	雑費	5,000	10,000
6	振込手数料	21,000	21,000
7	その他事務費	0	3,000
D	その他支出	0	0
			4,428,350
			6,667,571
			11,092,921

※1 平成23年度最終予算額



～恩師から～

卒業生と在校生の実践的専門職連携の提案

元医療福祉学部教授 佐直 信彦 (仙台青葉学院短期大学)

開学より13年間お世話になった東北文化学園大学を今春定年退職した。1999年4月、国見の大地に建学に燃える教職員と向学の学生が集い、我が学び舎の歴史が始まった。そして、第一回生の卒業の時、学びつ姿を眼の当たりにして、教育の素晴らしさに感激したことを、昨日のように思い出される。そして、昨年、関連する医療・介護施設や学会・研修会等で卒業生とご一緒することも多くなり、その活躍を喜んでいる。

私は、長年、宮城県の地域リハビリテーションの構築と推進に関わってきたが、多専門職間のface to faceの連携の難しさの壁にぶつかっていた。あるとき、専門職養成教育は、指定規則に基づく縦割りの教育であることに気付かされた。まさに、コロンブスの卵である。学部の縦割りが、卒業とともに、横の連携に転換することは容易でないのは当然と気づかされたのである。本学の医療福祉学部では9つの国家資格の養成教育を行っている。ならば、学科専攻を超えた横軸の共通教育が問題解決の糸口になるだろうと考えた。急がば回れである。折しも、日本保健医療福祉連携教育学会も創設された。益々、連携教育の必要性が信念となり、当時学部長であった試案を、時の実習教育計画室長の黒後教授、西本教授が地道に実践に移され、佐藤学部長が粘り強く教授会を動かし、今春から正規の科目「専門職連携セミナー」となった。独りの専門職がどんなに優秀でも、連携に基づく全人的包括ケアに勝ることはできない。であるならば、専門職連携教育は専門職養成教育の別物ではなく、専門職連携教育の基盤の上に、それぞれの専門職教育があると確信するまでになった。

このたび、同窓会報に原稿を依頼され、またまた、気づかされた。同窓会諸氏との連携・協働が、学部教育と同窓生との実践的専門職連携に発展するのではないかと。大いに期待し、提案する次第です。末筆ながら同窓会諸氏の益々のご発展を祈念し、責を果たしたい。

輝く サークル活動

ハンドボールサークル

私たちハンドボールサークルは、開学当初に創設され今年で創部14年目になり、OBは40名を超えます。最近では火曜日、水曜日、木曜日、土曜日の週4回活動しています。ハンドボールは、20×40mのコートで敵味方に分かれてゴールキーパーが守るゴールシュートを撃つ者、それを防ぐ者が入り乱れる激しいスポーツです。高校までの経験者も少なく、大学から始める者も少なくありません。未経験者も、ときには厳しく、ときには楽しく、いい雰囲気での練習に励んでいます。春と秋には東北学生ハンドボールリーグ戦に参加し、昨年秋に2部へ返り咲きました。また、県内の大会や県外の社会人チームとの対戦も積極的に行っています。部員数が少なく、人が足りない状態で試合をするときもありましたが、なんとか乗り越えてきました。これからも1部昇格を目指し、限られた練習の時間を大切に活動していきたいと思っております。

また、学園祭では、焼き鳥屋「大凶」を出店しています。毎年、行列ができるほどのなかなかの評判なので、ぜひ一度食べに来てください。ハンドボールサークル主将 東海林 昂(保健福祉学科 保健福祉専攻 4年)



児童サークル

私たち児童サークルは、約50人のメンバーで仙台七夕祭りに飾る七夕飾りの制作、文化祭での出店や児童の遊び場の企画を出展しています。今年も仙台七夕祭りに七夕飾りを出展しました。テーマは「愛と平和を被災地へ☆ ～LOVE&PEACE～」です。飾りのデザインや配色は自分たちで考え、毎週水曜日を除く平日の放課後に飾り作りや飾り付けを行いました。また、6月には近隣の小学校の子供たちを招き、交流を持ちながら楽しく3ヶ月の製作期間を過ごしました。飾られた作品をアーケードで目にするのがかみ上げてくるものがありました。

児童サークル代表 川村 正敏(リハビリテーション学科 作業療法専攻 2年)



平成24年3月卒 同窓会新役員の皆様

平成24年4月より3年間、東北文化学園大学同窓会活動を支える卒業生の皆様の代表(幹事)、全14名の方々です。皆様、よろしくお願ひします。

リハビリテーション学科	理学療法専攻	高橋 朋也	保健福祉学科	生活福祉専攻	小林 織恵
リハビリテーション学科	理学療法専攻	勝山 美咲	保健福祉学科	生活福祉専攻	佐藤 真理
リハビリテーション学科	作業療法専攻	太楽 幸貴	保健福祉学科	精神保健福祉専攻	伊木 成和
リハビリテーション学科	作業療法専攻	真弓 結花		総合政策学科	赤間 一真
リハビリテーション学科	言語聴覚専攻	半澤 翔悟		知能情報システム学科	佐藤 駿
リハビリテーション学科	視覚機能専攻	横枕 侑加		人間環境デザイン学科	久住 知裕
保健福祉学科	保健福祉専攻	梅木 諒		人間環境デザイン学科	鈴木 美沙

活躍する卒業生

卒業しても 大学

平成15年3月／医療保健学部 保健福祉学科 保健福祉専攻卒
社会福祉法人 みんなの輪障害福祉サービス事業所「わ・は・わ美里」管理者
伊藤 公善

平成15年に卒業して早や9年が経ちました。東北文化学園大学には障害者関係の仕事に就きたいと思い入学しました。今、学生生活を振り返ると「真面目」という言葉とは程遠い学生でしたが、三年生の時に障害者施設に実習に行きとても貴重な体験をさせてもらい、卒業後は絶対障害者施設に勤めると決めました。

現在は卒業してから3箇所目の職場に勤めておりますが、大学とは今も関わりがあり2年前よりSJ制度のキャンパススクリーナーの活動に、就労を目指している障害者の方を混ぜてもらって実習をさせていただいております。この企画は少なくとも県内では初の試みであり、障害者の方々にとっては施設内では経験できない外部の環境での作業活動が経験でき、就労する際の職種の選択に大いに役立ちます。また、大学側にとっては地域社会における貢献活動としての取り組みであり、更には学内で障害者の方々と関わりを持つことができ、特に医療福祉学部の学生にとってはジョブコーチと一緒に支援同様のこともできる良い経験になると考え、取り組みを開始しました。現在も継続して取り組み、その実習を経た利用者の多くが就労まで結び付くことができ、大学の理解と協力があったからこそ実現できた素晴らしい企画だと思います。

10年目となる今、改めて就業生活を振り返ると、職場の仲間に限らず様々な障害の方や関係機関の方々等、教え切れないほど多くの方に支えられてきました。中には同期の方や後輩となる方なども多く、今でも出会った際には学生生活や先生の話で盛り上がり、今後も日々の業務に追われながらも、皆様と出会える日を楽しみにしております。



「同窓会名物べったん餅店 一復興に願いを込めて」開店!

日増しに秋の深まりを感じるころとなりました。同窓会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか? 今年10月20日(土)、21(日)に、文化学園祭(テーマLet's)が行われることとなりました。

同窓会では、20日(土)に同窓生のためのホームカミングデーとして、恒例の餅つき大会を企画しております。つきたての餅は、おしるこ・手造り黒蜜&きなこ・ゴマ味など、様々なバリエーションで皆様に試食いただきます。(300名様分、なくなり次第終了となります。)同窓生による、復興への想いをこめた出来たてのお餅を、懐かしの母校で味わいませんか?

また皆さんがくつろげる「同窓会の部屋」や、児童サークルによる子供の遊び場も用意しております。是非ご家族連れでご来校おまちしております。

※餅つきに参加していただける、有志の方も随時募集しています。



今年もお会いしましょう

本年も学園祭にあわせてホームカミングデーを開催いたします。恒例の『餅つき』も行います。初めて大学で『餅つき』をしてから早10数年……年々、杵が重くなってきております。昨年より「輝ける者基金」への募金活動も沢山の協力をお願いしております。

今年の学祭はいつもと様子が違う。なんとあの『ロックの学園in東北』が学祭期間中、学内で開催されます。あのA●Bが見られる!? かつてないロック的な盛り上がりが見られます。会員の皆様も是非『ロックと餅つき』を体感してください。

同窓会会長 堀江裕宗

ホームカミングデーについてのお問合せ ▶ [東北文化学園大学同窓会事務局] alumni@office.tbgu.ac.jp ☎022-233-6194 (担当: 佐藤)

一年遅れの卒業パーティーを 開催しました — 保健福祉学科 —

平成22年度卒・保健福祉学科卒業パーティー実行委員会
同窓会理事 我妻 大史

我々の第9期生は、平成23年3月11日に起こった東日本大震災のため、同月の18日に挙行される予定の学位記授与式を中止せざるを得なかった唯一の学年でした。

大学生生活4年間の終止符を打てなかった思いや社会に羽ばたこうと一歩前へ踏み出そうとする機会を失った思いは、非常に悲しくもあり、辛くもあり、何より一番に込み上げた思いは悔しさでした。

そんな思いを抱いていたのは、私だけではなく、周りの友人も同じでした。

そこで、震災以来会えていなかった大学の友人やお世話になった先生方への挨拶を兼ねて当時行えなかった謝恩会を卒業パーティーという形で有志の卒業生で集まり、企画運営を行うことになりました。

しかし、お互い仕事や学校、各自の予定などでなかなか全員が集まって話し合う機会はそう多くは持てませんでした。そんな限られた時間の中で、実行委員それぞれがパーティーの成功を祈りながら、日々準備に取り組んでいくことができました。

9月1日(土)パーティー当日は42名の卒業生と9名の先生方に参加頂きました。お世話になった先生方への花束贈呈や、4年間の思い出をまとめたスライド、そして参加してくださった先生方からの贈る言葉など、当時行えなかったことを今回のパーティーで行うことが出来ました。

参加した同級生からの感謝の言葉、笑顔を見るたびにここまで苦労して準備してきた甲斐があったと思えました。

今回の卒業パーティーに対して多大なるご支援・ご協力を頂きました先生方をはじめ、同窓会事務局の佐藤さん、そして共にパーティー成功に尽力してくれた実行委員のみんなに対してこの場をお借りしてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。



文化学園祭2012 10. 20(土)・21(日) 開催のお知らせ

東北文化学園大学文化学園祭実行委員です。今年の2012年文化祭テーマ「Let's」を基にして、何事にも挑戦していくことを目標にして日々活動しています。さっそく最初の挑戦として「東北文化学園祭2012」と同時進行で「ロックの学園」という大規模なロックフェスが行われることが決定しました。これはロックミュージシャンたちが「ロックの教師」となり、ライブや授業、ワークショップを通じて「ロックの魂」を次世代に伝えていくことを趣旨としたロックイベントです。校長には忌野清志郎さん(出張中)、教頭には箭内道彦さんが就任し、盛り上がること間違いなしです。東北文化学園祭としては、学生たちによる屋台出店やステージでのライブ、そして学科ごとによる研究発表などがたくさんあります。実行委員でも、ステージでカラオケ大会やビンゴ大会などを展開し、豪華な景品をたくさん用意しています。そして最終日には花火を打ち上げ、東北文化学園祭の最終日の空を彩ります。来場者の方々にたくさん楽しんでもらうためにも、東北文化学園祭実行委員としても精一杯努力していくので、ぜひ「東北文化学園祭2012」に足を運んでみてください。よろしくお祈りします。

文化学園祭実行委員長 千葉 俊洋(保健福祉専攻 3年)



東北文化学園祭 学園祭 10/20・21 同時開催

東北文化学園大学 10/20・21 同時開催

AKB48 平原綾香 Dragon Ash 遊 甘ナクショコ KREVA 助

東北文化学園大学・専門学校オーブコキヤコバス同時開催

東北文化学園大学・専門学校 [進学センター] ☎0120-556-923

オフィシャルサイト <http://www.rocknogakuen.jp/2012/>